

## もし岐阜にディズニーランドがあったら

岐阜聖徳学園大学

高橋陽二ゼミ

田口秀太郎

長尾正人

宮崎雅大

岐阜県は、観光客数全国第 11 位であるのに関わらず、観光消費額は第 18 位、観光消費単価は第 38 位である。そこで、「もし岐阜にディズニーランドがあったら」、観光消費額や観光消費単価がどのように変化するかを検証した。

岐阜県は、年間 4 千人規模で人口が流出している。その多くが 20 代から 30 代であるため、将来的に所得を得る人、消費する人の減少が懸念されている。そこで、岐阜県以外から所得を稼ぎ、消費してもらうことが必要であり、「観光産業の基幹産業化」の実現を目指している。

「観光産業の基幹産業化」の実現を目指すためには、観光消費額・観光消費単価の増加が欠かせない。岐阜県の観光は、高山の町並みや、世界遺産の白川村合掌造り、岐阜城など、自然や歴史を目や耳で「感じる」観光が多い。そのため、テーマパークのような「体験」する新たな観光が必要である。近年、「体験」する観光は、売上が増加しており、消費を惜しまない流れが強まっている。

そこで、岐阜県の観光消費額や観光消費単価を増加させるために、テーマパークが開設された場合を想定し、東京ディズニーランドのデータをもとに検証する。東京ディズニーランドの行事や活動では、「エクスペリエンス」(experience)という言葉がよく使われる。「エクスペリエンス」とは、「体験」や「経験」といった意味である。この言葉が多く使われる理由は、ディズニーランドはゲストに素晴らしい「体験」をしてもらうことが、運営の基本的な理念としているからである。岐阜県には「体験」する観光が必要であり、ディズニーランドは「体験」することに重点を置いていることから、「もし岐阜にディズニーランドがあったら」という想定をしたうえで検証を行う。